

おおたの教育

第97号

大田区教育委員会広報

平成20年(2008年)
10月1日発行

今月の主な内容

- 1面 大田区学習効果測定の結果
- 2・3面 教育長と授業改善リーダーとの懇談会
- 4面 小学校教科用図書採択の結果
区民スポーツまつりの開催など

発行/大田区教育委員会 〒144-8623 大田区蒲田五丁目13番14号 TEL.03-5744-1111(代表) HP <http://www.city.ota.tokyo.jp/kyouiku>

大田区学習効果測定の結果について

子どもたちの学力向上のために、教員の授業力向上に取り組めます。

教育委員会では、子どもたちの学力の定着状況をしっかりと把握するために、今年度、大田区独自に学習効果測定を全区立小・中学校で実施しました。東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図る調査」は小学5年生と中学2年生を対象としていますが、大田区学習効果測定では小学4年生から中学3年生を対象を拡大しています。また実施時期を5月とし、前年の学習内容の基礎的・基本的事項の定着状況をより早く、的確に把握・検証し、2学期からの授業に反映できるようにしています。

今号では、授業改善リーダーが調査結果を詳細に分析し、課題を明らかにした上で、その解消を図るための具体的な授業改善案として作成した「授業改善のポイント」から、各教科の特に課題のある領域や観点を中心に内容の一部を紹介します。

問合せ 指導室指導主事 TEL 5744-1435 FAX 5744-1665



8月4日(月)に授業改善セミナーを開催し、授業改善リーダーが参加した197名の教員に授業改善のポイントを解説しました。

調査結果

大田区全体の結果は右表のとおりです。表2の数値は、問題ごとに正答できることを期待した点数の合計を上回った児童・生徒の割合を示しています。小学生はおよそ7割以上の児童が、中学生はおよそ5割以上の生徒が期待正解率を上回る結果となりました。

〔表1〕正答できることを期待した点数

	小学校			中学校		
	4年	5年	6年	1年	2年	3年
国語	73.2	71.0	71.0	72.8	74.0	71.6
社会	71.9	71.0	69.2	68.3	70.7	66.3
算数・数学	74.9	74.6	73.7	75.0	65.0	65.0
理科	76.7	71.0	70.6	69.3	63.3	64.1
英語					74.4	65.9

〔表2〕正答できることを期待した点数に達した児童・生徒の割合

	小学校			中学校		
	4年	5年	6年	1年	2年	3年
国語	69.1%	73.3%	74.3%	71.5%	60.1%	56.7%
社会	79.0%	84.8%	69.4%	54.4%	42.1%	40.6%
算数・数学	80.0%	79.5%	76.6%	72.8%	56.8%	58.3%
理科	71.4%	65.8%	72.9%	61.5%	44.8%	42.2%
英語					66.7%	54.9%

授業改善のポイント

【小学校】

国語 「読むこと」

課題 文学的な文章では、場面の情景を想像しながら読み取ること、説明的な文章では、目的に応じて細かい点に注意して読むことが不十分です。

対策 文学的な文章を読むときは、比喩表現で表されている場面を適切にとらえます。説明的な文章では、事実と感想との違いを押さえながらしっかり読み取ります。また、文と文とのつながりや指示語の指す語句についても正確にとらえられるように指導します。

社会 「知識・理解」

課題 社会事象についての知識・理解が不十分です。

対策 問題解決学習の際、ただ調べてノートに写すだけで終わっていないか、一つ一つの内容(事実)の意味を児童が理解できているかを確かめます。そのために、ワークシートを工夫し、理解するべき内容をおさえたり、調べたことを発表する活動を設けたりして、知識・理解の確実な定着を図ります。

算数 「数量関係」

課題 帯グラフを見て読んで割合にあたる量を求めることや割合の理解が不十分です。

対策 割合では、何を求めるのかをはっきりとらえ、基準とする量を1と見たとき、求める量がどれだけかをとらえます。その際、数直線の書き方を十分指導し、数直線を書くことによりその関係を視覚的にとらえ解決の糸口となるようにします。割合の意味を十分に理解した上で、帯グラフや円グラフについて考察する機会も多く取り入れます。

理科 「実験・観察の技能・表現」

課題 実験・観察の技能・表現の理解がやや低い傾向が見られます。

対策 観察するだけで終わらず、分かったことや考えたことを記述します。話の仕方の活用など、自分の考えを記述しやすい方法を考案するよう指導します。

【中学校】

国語 「言語事項」

課題 漢字を読む力はある程度ついていますが、書く力が弱いです。語彙の数が少なく、言葉の意味を理解しようとする意識が不足しています。

対策 単語の意味をとらえる学習を強化していきます。漢字については、読めるが書けない現状から、意味の理解と結びつけた漢字指導を行います。

社会 「歴史的分野」

課題 1学年、2学年とも古代についての理解が課題です。近現代の日本と世界においても課題が残ります。

対策 歴史新聞の作成を通して、各時代の政治や社会の動き・生活文化・国際関係(日本との対外関係)などの項目をまとめ、他の時代との相違点や共通点を考えます。さまざまな歴史資料(絵図も含めた)を読み取り考察します。読み取ったことを自分の言葉やレポートで表現したりする活動を課題学習として取り組むよう指導します。

数学 「図形」

課題 図形では、筋道をたてて説明する力や文章の中から関係や条件を読み取る力が不十分です。

対策 黒板で問題を解く、考え方を説明するなどの活動を増やし、結果だけにこだわらずに、問題を解決する過程を大切に、いろいろな表現の仕方や処理の方法があることを理解できるよう指導します。

理科 「観察・実験の技能・表現」

課題 観察・実験などで得た経験が、知識となつて定着しきれていないことがうかがわれます。

対策 授業での観察や実験の内容と、日常生活の関連性について理解させ、「何のために観察・実験を行っているのか」という目的意識をもって、積極的に取り組む姿勢を作ります。実験・観察器具の仕組みや使い方を指導し、使用させた後でその評価を実施します。

英語 「書くこと」

課題 書くことにおける正答率を問題ごとに比較すると、文の構成要素が増えるに従って正答率が低下している傾向が見られます。

対策 指書きしながら発音することや単語小テストの実施により、音と文字の結びつきを理解します。基本文の暗記、リスニングテストと合わせた基本文の書き取りテストなどを行います。

*授業改善リーダーとは、教科としての専門性を有する教員で、小学校4教科、中学校5教科から各4名ずつ計36名を教育委員会が指名しています。主な活動は、大田区学習効果測定などの結果に基づき、授業改善のポイントを作成するとともに、それに基づいた授業実践など、大田区の教員の中心となり授業力向上のための取り組みを行っています。



各教科から小・中学校1名ずつの授業改善リーダーが懇談会に出席し、教育長と盛んに意見を交換しました。

教育長と授業改善リーダーとの懇談会

子どもたちの学力向上を図るために

教育委員会では、安全面はもちろんのこと、学力の面からも安心して子どもたちを通わせられる区立小・中学校をめざして、「児童・生徒の学力向上」を最重点課題ととらえ、取り組みを進めています。

今号では、平成20年8月4日(月)に開催した、「児童・生徒の学力向上」をテーマとした教育長と授業改善リーダーの代表との懇談会の内容を抜粋で紹介します。

子どもたちに基礎的・基本的な学力を定着させるためには

(教育長)
東京都教育委員会が実施する児童・生徒の学力向上を図る調査で、ここ数年、大田区は下位グループに位置しています。その原因の1つとして、小学校の段階での基礎的・基本的な学力が定着していないのではないかと、中学校の段階で学習についていけなくなっているのは、小学校で身につけるべき学力が定着していないためではないかと思っています。

今回実施した学習効果測定の結果やみなさんの教員としての見識、そして経験の中から、教科ごとの学力向上のポイントをお話いただけますか。

国 語 御園中学校 松井 圭一先生
清水窪小学校 鈴木 伸作先生

国語の基礎は漢字と言葉の習得です。漢字を習得するには、反復練習が大切です。そして、言葉の習得には、漢字や言葉の意味を的確にとらえられることが必要です。そのためには、日常的に国語辞典を活用した学習が大切となります。漢字や言葉をしっかり習得し、語彙を広げることにより、子どもたちの読解力・文章力・話す力・聞く力を向上させることができます。

大田区では5年前から漢字検定を実施しています。子どもたちも漢字検定をかなり意識して学習していますので、子どもたちの漢字習得へのモチベーションを上げる手段となっていると思います。

算数／数学 雪谷中学校 久須美 章先生
萩中小学校 梨澤 百合子先生

算数では、子どもたちの考える力を育てる問題解決学習を取り入れた指導が重要だと考えています。また、子どもたちの計算力を向上させるには、答えを求めるための途中経過を大切に指導し、計算問題を反復練習することが大切です。

今回の学習効果測定の結果を見ると、問題が長いほど文章が読みこなせず、問題解決意欲が低下していく傾向が見られました。このことについて詳しく分析してみると、朝読書が定着している学校の子どもほど長文の問題に取り組もうとしている傾向があることがわかりました。算数・数学の立場からも、朝読書の活動が学力向上を図る上で、有効であると思っています。

社 会 羽田中学校 菅 善蔵先生
出雲小学校 山田 薫先生

社会では、教科書に出ている重要用語をきちんと理解し、確実に身につけさせることが基本となります。そのためには、なぜ重要なかを説明し、語句を反復練習させることが大切です。また、地理では、地図や地球儀を活用した授業を行い、その都度、生徒に確認させるという地道な取り組みが必要です。

統計資料、歴史資料は、資料を読み取り、その資料の背景や意図するところを分らせる授業を行うことです。そして、自分の考えをまとめ、言葉やレポートなどで表現させる活動も重要です。

理 科 大森第六中学校 吉野 俊一先生
田園調布小学校 阿部 容大先生

今回の学習効果測定の結果では、中学1年生と中学2年生に大きな差が出ています。これは、前年の学習内容を調査しているためです。小学校と中学校では学習内容が質的に違い、中学校の段階になると理科的概念や数学を使って推論することなどが求められるようになります。この結果には、大田区の中学生はこの部分が非常に苦手であるということが現れているということです。そして、学習内容の質的な違いを踏まえ、小学校と中学校が連携を図り、学習の円滑な接続をどのようにしていくのがこれからの研究課題になると考えています。

次に、やはり問題解決能力をどのように育てていくかが重要です。そのためには、さまざまな体験学習を通して、子どもたちに「不思議だな」「どうしてだろう?」と実感させ、興味・関心を高めていくことが大事であり、そのための環境整備も必要と考えます。また、理科を身近な生活と結びつけて考える力を育てることも大切と考えます。



朝読書の時間(羽田中学校)

英 語 大森第二中学校 早川 裕之先生

今回の学習効果測定の結果では、英文で答えるなど、英語を書くという設問で期待正答率と大きな差が出ました。これは単語や文法的な知識が足りず、英語で答えられないからです。

他の教科も同じだと思いますが、基本的な部分をしっかりと定着させていかないと英語の苦手な生徒は授業について行けなくなり、やる気も起こらないという状況になってしまいます。そのためには、まず、自分で勉強する方法を子どもたちに教えるということがポイントになると思っています。



自分で勉強する方法を習得することは、生きていく上で非常に重要なこと

(教育長)
すべての教科で、国語力、特に読解力が弱いという指摘がありました。これは、本当に大きな課題だと思います。そして、学習のポイントとして反復練習が大切という話も共通して出てきました。最後に自分で勉強する方法の習得というポイントをあげられた先生もいました。

小・中学校、それぞれの段階で、発達に応じ、自分で勉強する方法を身につけ、家庭学習として予習・復習を行うことは極めて大事なことだと思います。そして、自分で勉強する方法の習得は、生涯にわたり自己啓発を図る上で、また問題解決の具体的な方法と絡めて生きるために必須であると思います。

家庭学習について、意見や提案、具体的な事例があったら教えていただけますか。

(山田先生)
私は家庭学習が重要と考え、子どもたちに毎日宿題を出しています。最初は宿題をするのが大変だった子も続けることによって慣れてきます。また、続けることによって学習意欲も出てくると思っています。しかし、保護者にもいろいろな考えの方がいます。子どもの教育に関心のある方も、あまりない方もいます。宿題についても同じです。保護者に子どもの教育に興味をもっていただく、子どもたちに自信をもたせる、家庭学習をフォローするというような部分で、学校として地域力を活用していく仕組みをつくっていくことが必要かと思っています。

(鈴木先生)
家庭学習を定着させる上で家庭との連携は大事です。清水窪小学校では保護者会や学級通信などで、「こんな宿題を出します」ということを保護者に知らせています。

また、子どもの家庭学習へのモチベーションを上げるためには、学習の振り返りが必要です。定期的に小テストを実施し、「できた」という喜びや達成感を味わう経験を子どもに少しでもさせたいと思っています。やはり学力の定着には個人差がありますので、フォローが必要な子には十分に声をかけをする必要がでてきます。そういう子どもたちにも「がんばったね」という教員の一言がモチベーションを高めていききっかけになると思います。

(梨澤先生)
私も宿題は出していますが、家庭学習も必要だと思いますが、学校で朝学習や朝読書など授業以外の工夫をすることも学力を向上させる上で効果的だと思います。萩中小学校では、1学期から6年生で補習を始めました。私たち教員も放課後は会議などがあり忙しいのですが、校長や副校長、仲間の教員の協力も得て行っています。算数の場合は習熟度別少人数学習も行ってはいますが、学力の定着状況には個人差がありますので、もっと一人ひとりの状況に合わせて、向き合っていく指導ができるようになればと感じます。



算数の習熟度別少人数授業(萩中小学校)

(教育長)
ほかに、何か学校で取り組んでいることはありませんか。

(菅先生)
羽田中学校では、学習の手引きを作成し、生徒・保護者に配布しています。手引きには、授業の進め方・持ち物・家庭学習の方法・学習の到達目標などを具体的に教科ごとに書いてあります。昨年度は学年ごとに作成しましたが、今年度からは中学校3年間を見通せることをねらって1冊にまとめました。教員がこの手引きを基に生徒に指導するのはもちろんのこと、保護者には保護者会で説明をし、学校での教育活動やお子さんの学習状況に関心をもっていたできるよう働きかけています。

(阿部先生)
学校では、思考力や学習意欲・問題解決能力を向上させることを中心に指導していますが、テストで点数を採るための勉強は少し違う気がします。例えば、塾でやっているようなスキル形式のペーパーテストを取り入れると、個人的には学習効果測定の結果は上がると思います。

しかし、本来の意味での科学的思考力を高めるには、スキル形式の学習だけでは育ちません。自然体験や直接体験をする機会をたくさん与え、その中で問題を見出し、自分の力で問題解決をしていける学習過程を定着させることが大切です。このような研究を進めていくことが私自身、また理科部の研究課題となっていくのではと思っています。

(梨澤先生)
学力向上のためには、学習指導以前に生活指導・学級経

営がすごく大切だと思っています。子どもたちが落ち着いた状況で授業を受けることができれば、基礎的な学力は定着させられません。また教員が日々生活指導に追われているような状況では授業は成り立ちません。

学習指導もそうですが、特に生活指導では、教員の共通理解・共通実践が必要です。また同じように保護者にも働きかけをしていくことが必要です。

また、いま学校には新採教員の配置が増えていますので、若い教員の指導力・授業力を育てることも重要です。若い教員は意欲も向上心も持っています。具体的に「こうやりましょ。」「共通実践ましょ。」とお願いすると一生涯命に取り組んでくれます。

(早川先生)
子どもたちは、教員の指導の違いや迷いなどをよく見て感じとっています。そのためにも教員相互のコミュニケーションや共通理解・共通実践というのは大切だと私も思います。特に若い教員にとっては、具体的な対応方法などの

ま と め

学力向上のためには、**「教員の授業力+子どもたちの学習意欲」**が必要

私は、子どもたちが意欲をもって学習に取り組む姿勢と教員の授業力があいまって、学力は向上していくと考えています。子どもたちの学習意欲を高めるには、内発的な動機を育てることが重要です。そのためには、子どもたちの興味・関心を高め、「勉強は楽しいな」という気持ちを育てる必要があります。先程、達成感を味わう経験という話がありました。子どもたちが自己肯定感や達成感をもつのは、学習意欲を高める上でとても大切なことです。

また教員の授業力の面では、いわゆる団塊の世代の大量退職に伴い、学校現場に新採教員の配置が増えています。教育委員会としても、研修などを通して授業力・指導力の向上に努めています。やはり日々現場で先輩教員が適切に指導していくことが1番の力になります。そして、教員自らが自己研鑽・相互研鑽に励む姿勢が子どもたちを刺激することと思います。

学力定着を図るためには、**「問題解決能力+反復学習」**が重要

なぜこういう結果になるのかという思考の積み重ねで論理的な問題解決能力を養うことは必要ですが、私は反復学習の量が学力の定着を図る上で大きなポイントになると考えています。

授業の中で反復学習を行うには限界があります。教員は宿題を出すことによって、反復学習の機会を確保し、自発的に家庭で予習・復習が行えるようになってほしいと働きかけているのだと思います。例えば、毎日30分の家庭学習を1年間続けると180時間、小学校6年間では1,000時間にもなります。少ない時間でも、毎日持続することによって大きな時間になり、この反復学習の取り組み時間の差は基礎学力の差となってきます。子どもたちの学力は一律ではないという話もありましたが、自己学習の仕方を習得しているか、家庭学習を行っているかが違いとなって現れているのではないかと考えています。

助言や共通理解を深める場や雰囲気、共通実践ましょよという教員のまともりは心強いと思います。

また、中学校では、1日中生活指導に追われるような場合も出てきます。最近では、教育委員会から生活指導支援員が派遣されるようになり、教員としては助かっています。生活指導に追われる中でも、少し冷静になれる時間が持てること教員自身がかんばることもできるようになりますし、平常心を保って指導にあたることができるようになります。



教員の10年経験者研修

子どもたちの学習環境を整えるためには、**「学校+地域力」**で地域全体での**教育支援体制**が必要

すべての子どもたちが同一の家庭環境・学習環境で勉強をしているわけではありません。そして、学力にも個人差があるとすれば一律・一般的な学力向上策を講じても効果はできません。個々の学校、一人ひとりの児童・生徒の状況を勘案して対応をしていくことが必要です。また、一生涯命に勉強を続けてきた子どもでも学習意欲が低下することも、挫折を味わうこともあります。最近ではニートなどと呼ばれ、勉強をしなくなってしまうたり、社会にかかわろうとする力がもてなくなってしまうりする若者もあり、そういう問題への対応も小・中学校の段階から必要になっていきます。そうなると学校だけの力では、対応が難しいところがあります。

羽田中学校では、学習の手引きを通して保護者に学校教育に関心をもってもらおうとしている。萩中小学校では、共通理解・共通実践ということで保護者へ働きかけを行っているという報告がありました。ほかの学校でもいろいろな取り組みを行っていると思います。

私は、子どもたちの学力向上や学力格差の是正という問題は、家庭や地域との連携なくしては解決できないと考えています。もちろん、生活指導や子どもたちの社会性を育む活動も同じですが、保護者や地域へさまざまな働きかけを行い、地域をあげて子どもたちを育てていこうとする機運を盛り立てていく必要があると思います。PTAだけでなく、卒業生や地域の方、学校・子どもたちのためにがんばろうという方をサポーターとして学校活動に取り組んでいく、地域と一緒に学校を運営していく、そういう仕組みをつくっていきたいと思っています。

最後になりますが、みなさんには授業改善リーダーとして、教員の中心となり、将来の大田区を支える人材を育てていただきたいと思っています。

(教育長 清水 繁)

平成21・22年度使用 小学校教科用図書採択の結果について

8月27日(水)に開催された教育委員会定例会において、平成21・22年度に大田区立小学校が使用する教科書の採択を行いました。

採択結果は下の表のとおりです。



今回採択された小学1年生の教科書

教科書採択はおおむね4年に1回ですが、小学校では学習指導要領の改訂に伴う新課程が平成23年度からはじまるために、今回採択した教科書は来年度から2年間使用されることとなります。この2年間は、新しい学習指導要領に基づいた新課程への移行措置期間となります。

なお、移行措置期間中の新課程の先行実施にあたり、教科書には記載がない事項を指導する際に必要となる教材については、国の責任において作成・配布されることになっています。

問合せ先 指導室指導主事

TEL 5744-1435 FAX 5744-1665

平成21・22年度使用小学校使用教科用図書一覧

種目	発行者	教科書名
国語	光村図書出版	国語
書写	光村図書出版	書写
社会	東京書籍	新編 新しい社会
地図	帝国書院	楽しく学ぶ小学生の地図帳
算数	東京書籍	新編 新しい算数
理科	東京書籍	新編 新しい理科
生活	光村図書出版	せいかつ上 みんな だいすき せいかつ下 みんな ともだち
音楽	教育芸術社	小学生の音楽1～6
図画工作	開隆堂	図画工作 にじのくれよん1・2上 図画工作 まほうのねんど1・2下 図画工作 えのぐのぼうけん3・4上 図画工作 光のおくりもの3・4下 図画工作 ゆめのパレット5・6上 図画工作 心のキャンパス5・6下
家庭	開隆堂	小学校⑤⑥ わたしたちの家庭科
保健	学習研究社	新・みんなのほけん3・4年 新・みんなの保健5・6年

10月13日(月)、体育の日に 第25回大田区区民スポーツまつりを開催します。

大森スポーツセンター、大田スタジアム、多摩川緑地、区立小・中学校、民間スポーツ施設など区内36か所を会場に区民スポーツまつりを開催します。

各会場では区内スポーツ団体などの協力により、さまざまなスポーツやレクリエーションを楽しむことができます。



第24回区民スポーツ大会
(大田スタジアム会場)

体力測定で自分の体をチェックしたり、いろいろなスポーツを体験したりしてみませんか?

会場やプログラムの詳細は大田区報、区設掲示板などでご案内するとともに、ホームページにも掲載しています。

ぜひ、ご家族そろって、ご参加ください。

問合せ先

・大田区体育協会
TEL 5471-8787 FAX 5471-8789

・社会教育課事業係
TEL 5744-1447 FAX 5744-1539

HP <http://www.city.ota.tokyo.jp/event/sports>

体験活動の充実を図るために

体験活動を充実させるために、来年度から移動教室などの実施方法を次のように変更します。

	種別	平成21年度から		平成20年度まで	
		日数	場所	日数	場所
小学5年生	移動教室	2泊3日	伊豆高原学園		
小学6年生	移動教室	3泊4日	休養村とうぶ	2泊3日	伊豆高原学園
中学1年生	移動教室	3泊4日	野辺山学園	2泊3日	休養村とうぶ
中学2年生	移動教室	(廃止)		2泊3日	野辺山学園
	職場体験	充実	各事業所	3日間以上	各事業所

自然体験が中心になる移動教室は、子どもたちの自然への興味や関心を高めるとともに、集団の規律や秩序を守る態度を育てる貴重な場となっています。宿泊を通して、友だち同士や先生との信頼関係をきずきます。(写真は小池小学校)



問合せ先 学務課学校運営係

TEL 5744-1427 FAX 5744-1536

中学生ものづくり職場体験シンポジウム ものづくりのまち おおたの子どもを育てるために

8月23日(土)、大田区の産業の中心であるものづくり(製造業)において職場体験を推進することを目的に、中学生ものづくり職場体験シンポジウムを池上会館で開催しました。

シンポジウムには、製造業関係者・保護者・教員・高等学校関係者な



さまざまな分野のパネリストを迎えての
パネルディスカッション

ど、総勢200名の参加があり、ものづくり(製造業)における職場体験を進めるためには、安全面の配慮や従業員の受入体制の整備、受入事業所の拡大を一層進めていく必要があるなど、課題の共通理解を深めました。また、製造業の発展と人材育成には密接な関係があり、義務教育期のものづくり教育を一層推進する必要性や地域で子どもたちを育てる重要性についてなどの意見も出されました。

シンポジウムの最後には、御園中学校2年、岩崎あかねさんの作文が紹介され、職場体験を通して、仕事の難しさやつらさ、責任、楽しさ、そして自分自身の将来の目標などに気づくことができたとの報告がありました。

問合せ先 指導室指導主事

TEL 5744-1435 FAX 5744-1665

表彰

- スポーツ部門
- 第25回関東小学生男女ソフトボール大会【女子3位】新宿ファイターズ
- 第35回東京都小学生男子ソフトボ

- ール大会【優勝】オール徳持
- 第29回東京都小学生女子ソフトボール大会【第2位】新宿ファイターズ【第3位】矢西ビクトリー

教育委員会委員長等の選任について

平成20年6月28日付で、教育委員会委員長に高山美智子委員及び同職務代理者に野口和矩委員が選任されました。



高山 美智子
教育委員会委員長



野口 和矩
同職務代理者

教育委員会の主な議題

- 平成20年第5回定例会
- ・大田区教科用図書採択要綱の改正について

- 平成20年第7回定例会
- ・平成21年度使用教科用図書採択資料報告

教育委員会定例会の開催予定日

- 日時 平成20年10月29日(水)
平成20年11月26日(水)
平成20年12月24日(水)
- 時間 いずれも午後2時からです。
- 場所 本庁舎6階 教育委員会室

※予定が変更になる場合もあります。傍聴を希望される方は、あらかじめ、下記までご確認ください。

問合せ先 庶務課庶務係

TEL 5744-1422 FAX 5744-1535